

社会厚生常任委員会行政視察報告書

平成 17 年 11 月 24 日

- | | |
|----------|--|
| 1. 日 程 | 平成 17 年 10 月 26 日～10 月 28 日 |
| 2. 視察先等 | 京都府 京田辺市 人口 60,009 人 (H17.4.1.現在)
三重県 亀山市 人口 48,517 人 (H17.4.1.現在) |
| 3. 視察事項 | 京田辺市 ・子育て支援センターについて
・児童館及びこどもセンターについて
亀山市 ・総合保健福祉センターについて |
| 4. 視 察 者 | 一行 9 名
委員 委員長 高橋禧雄 副委員長 安中利男
森山一理 安田憲喜 大関勝正
樋口浩二 関 龍雄
当局 福祉事務所次長 武内 豊
随行 議会事務局参事 難波信一 |

京田辺市

【市の概要】

京田辺市は、東に木津川が悠々と流れ、西には生駒山系に連なる甘南備山が控える、豊かな自然に囲まれたまちで、京都・大阪・奈良を結ぶ三角形のほぼ中心に位置し、地理的条件とあいまって古くから交通の要衝として栄え、南山城地方の行政・経済・文化の中心地として発展してきた。近年は、大規模な宅地開発や交通網の整備、学研都市の建設に伴い、市人口が急増している。現在は、「緑豊かで健康な文化田園都市」を目指したまちづくりを進めている。

【事業の概要】

1. 子育て支援センターについて

京田辺市は、平成 12 年 3 月に児童育成計画(キ・ラ・ラげんきっ子プラン)を策定し、子育て支援の取組み等を進めるなかで、平成 14 年 4 月 1 日から「子育て支援センター」を、市の北部にある私立大住保育園の増改築に合わせて同保育園内に設置した。

その後、急速に進行する少子化支援等の一層の充実を図るため、児童育成計画の前期計画期間が終了したことから、平成 15 年 7 月に制定された次世代育成支援対策推進法に基づき、平成 16 年度において児童育成計画を発展的に見直し、新たに「京田辺市次世代育成支援行動計画」を策定し、第一番に「地域子育て支援センター」の整備を取り上げ、市の南部にある公立河原保育所の建替えに合わせて、同保育所内に 2 か所目の支援センターを平成 20 年に設置することにしている。

- (1) わくわくひろば(園庭開放)・・・大住保育園の園庭を開放して、母子が一緒に保育園児と遊ぶ環境を提供している。

- (2) いっしょにあそぼう“すくすく”(親子遊び)・・・月1回開催。親子で向き合い、親子で楽しく遊ぶことをねらいとし、家で子どもと遊ぶ時、サークルの時に役立つあそびのヒントを提供する。
- (3) すくすくサロン・・・子どもを遊ばせながら、母親同士気軽におしゃべりを楽しむ場で、ストレス解消、子育ての悩み相談、友達作りに役立っている。会場は、子育て支援センターの他に、各地区公民館等で行っている。
- (4) 子育て相談・・・来所相談と電話相談で子育て相談を行っている。
- (5) 地域子育て支援センターだより“すくすく”の発行・・・毎月1回発行、(1)～(4)まで情報を満載して参加を呼びかけている。

2. 児童館及びこどもセンターについて

京田辺市の児童館は、児童福祉法第40条に定められた「児童に健全な遊びを与えてその健康を増進し、または情操を豊かにすること」を目的とした児童福祉施設で、遊びを通して子供の成長を支援する専属の「児童厚生員」がいる。

児童館を利用できるのは、乳幼児とその保護者と18歳未満の小・中・高校生などとなっていて、現在、田辺児童館、普賢寺児童館、大住児童館の3箇所が開設されている。

こどもセンターは、地域の子供の居場所づくりを目的に、南山こどもセンターが開設されていて、小学生向けのいろんな指導・授業が行われている。

(1) 田辺児童館

- ・ なかよしクラブ・・・毎週土曜日、18歳未満の小学生から高校生までを対象に、手芸や工作などの指導を行う。
- ・ ふれあい広場・・・毎週月曜・金曜日、就学前の乳幼児と保護者を対象に、先生が親子と自由に遊んだり育児相談などを受ける。
- ・ 発達相談・・・毎週月曜～金曜日まで、育児中の保護者からの発達や育児全般の相談を受ける。
- ・ 親子ぴよぴよ教室・・・4ヶ月ずつ3期に分けて、育児の中で心配や不安のある3歳未満児とその保護者を対象に、親子のグループで担当者と一緒に楽しみながら、子どもへの関り方や遊び方を体験する。
- ・ ふれあい教室(京田辺市心身障害児通園事業)・・・心身の発達に弱さやつまづきのある就学前児童を対象に少人数グループによる運動や遊びを通して子どもの可能性を引き出す。また、専門家の助言をもとに、保護者との学習会を行い、障害や発達についての科学的な認識を深め合う。

(2) 普賢寺児童館

- ・ 親子教室・・・0歳～2歳児を対象に、親子で交流を深めたり、子どもへの関り方、遊び方等を楽しみながら体験する教室。
- ・ 育児相談・・・育児中の保護者を対象に、発達・育児・遊びなど、子育て全般について相談を実施している。
- ・ ふれあい広場・・・市内在住の乳幼児とその保護者、18歳未満の小・中・高校生等を対象に、自主的な活動を中心に交流したり遊んだりする。
- ・ なかよしクラブ・・・市内在住で18歳未満の小・中・高校生等を対象に、健全育成

を目指して、指導員が子どもたちと一緒に遊んだり、話し相手になる。

(3) 大住児童館

宝生苑という老人福祉センターとの複合施設として開設した。対象者は、就学前の子どもとその保護者、18歳未満の小・中・高校生等。

施設は、「図書・パソコン室」、いろんな遊具を使って遊べる「交流ホール」や「多目的広場」、水遊びのできる「ゆうぎ広場」がある。

その他に、育児サークル室があり、20のサークルが活動している。

(4) 南山こどもセンター

小学生から高校生を主な対象として、専従の指導員や専門の講師による、卓球教室・生け花教室・パソコン教室・英会話教室・おはなし広場・こどもクッキング教室・将棋教室、その他に折り紙・工作・手芸・スポーツなどのクラブなどがあり、また育児サークル活動がある。利用状況は、H16年度で月平均333人となっている。

【所 感】

京田辺市では、『「みんなで子育て 子どもきらきら 京田辺」～子どもの輝きが、すべての市民を結ぶ～』との基本理念の下、家庭や地域の温かいまなざしと支えあいの中で、子どもたちの成長していく輝きが、世代を超えてすべての市民を結び、それによって明るい未来が描けるまちを目指しているとのこと。

子育ての不安や悩みを抱えて一人で悩んでいる母親が多い現代、加茂市も例外ではない。家庭・地域・市民が一体となって子育てをすることの必要性を強く認識した。

亀山市

【市の概要】

亀山市は、三重県の中北部に位置し、古くから東西を結ぶ交通の要衝として栄え、現在では、国道1号、東名阪自動車道、名阪国道が行き交う町である。

最近では、お茶やアートキャンドルなどの地場産業育成に力を入れる一方、世界最新鋭の大型液晶テレビを生産するシャープ(株)の工場立地をした内陸工業都市である。今後、県内外を代表する新産業拠点としての役割を担っていくことが期待されている。

【事業の概要】

1. 総合保健福祉センターについて

福祉向上と健康保持が行政における最重要課題との認識から、福祉・保健・医療の一体となったネットワークづくりと、市民ぐるみの地域福祉の充実を図るため、一元的なサービスを提供するネットワーク拠点として、平成13年4月1日にオープンした施設で、名称を一般公募し、建物が「あいあい」、温泉が「白鳥の湯」となっている。

(1) 施設の理念

保健・福祉・医療の連携の拠点。サービスの提供や活動を支える拠点。市民交流の拠点。を理念とし、市民の利用しやすい、またふれあいの場となる施設づくりを目指している。

(2) 施設の概要

建設年月日	平成 10 年、11 年、12 年の 3 カ年で建設。
建物の構造	鉄筋コンクリート 2 階建て
面積	敷地面積 約 28,541 m ² 述床面積 約 5,416 m ² (1 階 3,358 m ² 、2 階 2,058 m ²)
事業費	約 28 億 6,400 万円

(3) 施設の機能と業務

センターには、「ふれあい交流」、「健康づくり」、「在宅支援」、「児童育成」、それらの土台となる「ネットワークづくり」の 5 つの機能を備えている。具体的には、次の各業務が入っている。

証明書交付サービス	住民票、印鑑証明、所得証明、納税証明の交付
保健福祉課 (職員 54 人)	福祉事務所・健康づくり(保健センター)・地域子育て支援センター・家庭児童相談室・幼児部門事業(児童センター)
社会福祉協議会 (職員 20 人)	在宅介護支援センター・居宅介護支援事業所・訪問介護事業所・心配ごと相談所・ボランティアセンター、(ヘルパー 24 人)

(4) 施設の管理運営体制

施設管理は業者に委託している。業務内容は、日常の設備運転管理業務と定期保守業務で、運転管理業務は電話回線で 24 時間 365 日遠隔管理している。

(5) 施設の維持管理費

平成 16 年度 電気・水道・ガス使用料、合計で約 1,737 万円

(6) 温泉施設「白鳥の湯」の概要

管理運営

社会福祉協議会に委託し、更に高齢者の雇用確保・活用のためシルバー人材センターへ再委託している。管理人を含め、24 人が働いている。

入浴料

一般 150 円、高齢者(65 歳以上) 100 円、子供(12 歳未満) 50 円

市条例では入湯税を規定しているが、実際は徴収していない。また、市内・市外問わず同一料金としてある。(一部に差をつけるべきとの意見がある。)ただし、毎月 11 日は市民の日としている。別に足湯を設置している。(無料)

温泉の入浴者、使用料収入

16 年度実績	入浴者 27 万人(1 日平均 700 ~ 800 人)
	浴場 25,447,200 円、温泉スタンド 301,240 円
	回数券 1,527,500 円、合計 27,278,940 円

【所 感】

パンフレットに謳っているように「すべての人が安らかに、生き生きと暮らしていける“幸せの拠点”」としての機能を集めた施設で、広々とした開放的な造りが来た人の心を明るく癒してくれる、そんな思いを抱かせてくれた。センター内にはカラオケルームもあり、ルームからは歌声がかすかに聞こえていた。